

マイマナーズの 食卓彩菜

北海道胆振東部地震により被災された皆様、台風などの豪雨により被害にあわれた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

この度は、「毎日のお惣菜」頒布会をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

お客さま方の食卓に彩を添える季節の旬のお惣菜を、ひと品ひと品、まごころを込めてお届けいたしますので、味付けやメニュー、サービス等についてお気づきの点がございましたら、同封のはがきなどで、ご意見やご感想等何なりとお寄せくださいますようお願い申し上げます。



おやすめしや 三陸さんま

「ペッコ」は「ちよっと、又は小さい」、「おやすめんせ」は「お休み下さい、又は休んでいって（寄って）いって」、おやすみなさい」という意味の花巻弁です。題字は「ちよっと、ここで休んでいって〜」という意味です。

三陸の幸、秋の味覚、さんまが、8月25日に本州でトップを切って岩手県大船渡市の魚市場に初水揚げされました。今年は、記録的な不漁となった昨年を上回ると予想されており、我が家では毎年、夫の従弟から送られてくる大船渡直送便のさんまがシーズン初めのさんまです。いつものころから、儀式的様にシーズン初めに食するさんまは、夫が炭火で焼くのが恒例となっています（私は、ロースターで焼いちゃうので。笑）。今年は、昨年より型も大きく、身もふっくらして脂ものっており、とても美味しかったです。昨年はあまり食卓に上ることもなかったのですが、今年は店頭にも多く売られており、心置きなく堪能できそうです。

岩手のみならず、各地でさんまのイベントも催されますが、

有名なものは、落語の「目黒のさんま」にちなんで行われる「目黒のさんま祭り」（今年は9月9日開催）では宮古市のさんまが、「三陸・大船渡東京タワーさんままつり」（9月23日開催）では大船渡市のさんまが振舞われ、全国の皆さんの舌を楽しませてくれるようです。他には、さんまは無料ですが東日本大震災復興支援のため義援金を募るイベントを開催されることもあることや、西日本豪雨などで被災した地域に、交流のある市がさんまを送り、被災者にふるまわれることもありました。さんまが、復興支援や他地域との絆を深めることに一役買っているようです。

大船渡市では、さんまを使用した「さんまラーメン」を提供するお店もあります。出汁で使用するところ、つみれやそのまの身も使用するところ、味も醤油や味噌など様々です。私はお気に入りのラーメン店があり、車で1時間半かけて食べに行くことがあります。興味のあるかたは、ご自分のお好みを探してみてくださいませ。

先月9月のメニューの中に「三陸産さんま生姜煮」がありました。食べやすく主菜になる一品となっていたと思います。

秋本番、「三陸のさんま」をどうぞお楽しみください。

花巻だより

賢治祭 宮沢賢治を偲び、精神を伝える



お彼岸の9月21日は、花巻生まれの詩人・童話作家の宮沢賢治の命日であり、毎年この日の夕方16:00から「賢治祭（けんじさい）」が行われます。例年は、弊社近く「雨二モ負ケズ」の賢治詩碑がある場所で行われます。この場所は、賢治が一人の農民として自炊生活をした羅須地人協会（らすちじんきょうかい）の建物があった場所です。現在は、賢治が教鞭をとった県立花巻農業高校の敷地内に移設され、保存されています。賢治祭では、献花や賢治の詩の朗読、賢治作品の歌の合唱、野外劇、郷土芸能や、篝火（かがりび）を囲んでの座談会も行われ、全国から集った賢治ファンが、幻想的な賢治の世界を堪能します。今年は、あいにくの天候の為、近所の花巻市立南城（なんじょう）小学校の体育館に場所を移しての開催でしたが、在学している弊社従業員のお子さん達も合唱などを披露しました。このように、花巻に生まれた者は、子供の頃から本を読むだけではなく、合唱や劇などで宮沢賢治作品に触れ、学習します。幼い頃には、理解できなかった内容も、歳を経て作品に触れるとその奥深さに考えさせられます。また、幼い時から触れ合っていたからこそ、今わかる賢治の精神があるような気がします。イーハトーブとって理想郷を求め、平等や平和を願った賢治の精神は、これからも次の世代に伝え、イーハトーブと名乗るからには、ここ花巻から平和につながる何かを発信できるような故郷であってほしいと願っています。